カオハガン島研修報告書

今回「何もなくて豊かな島」カオハガン島への多文化理解体験研修に参加し、フィリピンとはどういう国なのか、文化の違い、命をいただくことへの感謝の気持ち、水の大切さ、人との関わり等様々なことを学ぶことができたと感じる。

①参加目的と参加目的の達成程度

〇参加目的

来年度４年生になるにあたり、就活しなければならない時期が迫ってくる中で、私は大学卒業後にやりたいことや就きたい仕事が見つからずにいた。周りの知人が東北や海外へボランティア行った話を聞き、自分もどこかに行きたいというといった気持ちがあった。そこで、今回の海外研修で豊かな自然や島民の方達と関わる中で、やりたいことや就職について、自分なりに何か見つけたり掴むことができるのではないかと思い、参加を希望した。

また、他学部他学年とサークル内であればかかわりを持つことが可能であるが、日々の授業を受ける中では同学年以外関わりを持つことがないことが多いため、今回の研修では交流をすることを目的に組み込んだ。

〇上記の目的に対する達成程度

最も大きな目的である就職に向けやりたいことを見つけるに関しては、フィリピン滞在中も帰国後も明確な答えを見つけ出すことができなかったと感じる。しかし、これからに必要な何かをつかめた研修旅行になったのではないかと感じる。

オリエンテーション時よりも他学部他学年交流は、5泊６日同じテーブルを囲み食事をとったり、協力して小学校交流を行った中でできたのではないかと感じる。交流を行うことで、趣味を共有し合えたりお話することが以前よりできるようになったので、よかったと感じる。

②研修全体を通して学んだこと

私が研修を通して学んだことは、ⅰ島民たちの笑顔と幸せについて、ⅱ命を頂いていることへの感謝の二つである。

ｉ島民たちの笑顔と幸せについて

研修 2 日目に島主である崎山さんからのお話の時間があった。その時のお話の中で、「島の一家族あたりの収入は、国連で示されている最貧国の基準の半分しかない。それでも笑いあって生きているのは、自然の恵みに感謝しみんなで助け合って生きているから、笑顔で楽しく過ごせているからだ。」というようなお話があった。私は、『自然の恵みに感謝し助け合って生きていくこと』という当たり前で忘れやすく難しいことを、島の人は忘れずにいるということがとても素敵なことで、見習う必要があるのではないかと思った。

また、お話の中での『いつも笑顔でいられること、楽しく過ごしていること』の理由となる部分を私はいくつか実際に体験することがあった。

一つ目に、5 日目の半日ホームステイでの出来事である。私のホームステイ先は、サリサリストアという島の中に何店かある小さなお店を経営している家であった。

サリサリストアの前に椅子を置き、ホームステイ先の奥さんやおばさんと時々お話しながら店番のようなことをして過ごしていたとき、ホームステイ先に男の人がやって来た。その人も島民であったみたいだが、男の人が「ともだち」（自分たちは友達だよ、といったニュアンス）と私に言ったとき、ホームステイ先の奥さんは最初怪訝な顔をした。しかし、男の人と一言二言交わした後、「イエス、ともだち」と言った。私の方も向き、「ともだち」と言ってくれた。

その様子から『ともだち』の意味として、よく言う一緒に話をしたり遊んだりする友達の意味ではなく、島の人たちみんなが友達といった意味なのではないかと解釈した。そして、男の人が言っていた「ともだち」は島の仲間だといった意味もあるのではないかと考えた。

二つ目に、島ではラジオや音楽が大音量で掛けられていることが多かった。日本では、ライブやお祭りぐらいでしか大音量で音楽を掛けることはないため驚いた。日本人のスタッフ方曰く、日本では個人で好きな音楽を楽しみたいという考えであるが、島の人たちは自分が聞いている音楽をみんなにも聞いてもらい楽しんでもらいたいという考え方から、音楽を大音量でみんなに聞こえるよう流しているのだとおっしゃっていた。

なぜこれらの出来事が印象に残ったかというと、母屋にあった『たくさんのふしぎ　小さな南の島のくらし』（崎山克彦（2014 年 7 月）福音館書店）という絵本の内容を思い出したためである。絵本に、島民の人たちは嫌なもの・ひととは無理に仲良くしないが、何か大きな出来事が起こったとき協力し合うといったところがあると記されていた。崎山さんがおっしゃっていた『いつも笑顔でいられること、楽しく過ごしていること』ができる理由は、経験した 2 つのようなことなのだろうかと絵本の内容から考えた。そして、島民

たちの笑顔や考え方を実際に肌で感じることができ、嬉しく感じた。

また、島の人は貧困であっても笑顔でいられるのは、幸せであるから笑顔でいられるのではないか、と 5 泊 6 日の島の人々の沢山の笑顔を見て思った。

1 日目セブ島からカオハガン島に船で渡っていたとき、暴風雨にみまわれて船に雨が入ったり、風がつめたかったり、船が大きく揺れたりした。私たちは、夜で真っ暗だったため島が何も見えないことや雨風が酷かったことから無事に島につくことができるのかという不安をかかえていた。そんな時、島民である船乗りの人たちは満面の笑顔を浮かべて笑っていた。それは店員さんがお客さんに向けるような、愛想の良い作った笑顔ではなく、心から楽しいと自然に溢れる笑顔に私は見えた。私は、日本でのそういった笑顔を見る場面があるのは、親しい友人間や家族内といるとき、心から楽しい・面白いと感じたときであって、今回のような雨風で揺られる船の中では起こり得ないのではないかと感じた。そして、その笑顔は私たちの不安を少し取り除いてくれていたように思う。

幸せイコール笑顔ではないと思うけれど、笑顔が大切なもので周りの人を明るくする素敵なものであるということが分かった。

ⅱ命を頂いていることの感謝

研修 5 日目、夕食に並べられるメインとして豚の丸焼きを作るにあたり、朝食後に豚のと殺を見学させていただいた。日本では限られた場所で行われており、実際にと殺現場を見ることは日常生活の中で見ることはない。そのため今回の見学は大変貴重なものとなった。

と殺は、生きている豚を台に寝かせ、刃物で首元を切り、血を抜くというところを見させていただいた。私は、その時の台に上げられたときや首元を切られた時の豚の悲鳴や絵が今でも忘れられない。死の瞬間を自覚して叫ぶ悲鳴はとても悲しい声に聞こえ、私は涙を流した。それは、2 度と豚や牛といった生物を口にしたくないといった拒否感情ではなく、いつもありがとうといった生物への感謝の気持ちを生んだ。これから食事をする際には、忘れずにいただきますごちそうさまをし、生き物に対して感謝していこうと思う。